

NIUE

ニウエガイドブック



刊行に当たって

本書は太平洋諸島センターの活動対象となっている太平洋島嶼国14カ国のうち、ニウエに関する観光情報をできるだけ詳しく纏めたものです。また、同国をできるだけ深く理解していただくために、観光情報以外にも歴史、経済、社会等についても紹介しています。

ニウエは太古のサンゴ礁が隆起してできた世界最大の珊瑚礁の島で、雨は地下の石灰岩により浄化された後、海にしみ出るので透明度が高く、ダイビングを初めとするマリン・スポーツが盛んです。小さな島ですが、手付かずの自然を洞窟ツアーや熱帯雨林の散策で楽しめます。

統計によれば、2017年にニウエを訪れた人は9,922人ですが、そのうち約8割がニュージーランドからで、日本からはたったの160人しか訪問しておらず、ほとんど知られていないのが現状です。

本書が日本におけるニウエについての関心と理解を深め、これから同国を訪問する方々の参考となれば幸いです。

2023年3月

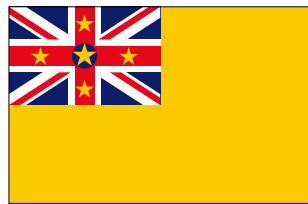
国際機関 太平洋諸島センター

国際機関 太平洋諸島センターでは、ホームページ (<http://www.pic.or.jp>) でも情報を公開していますので、併せご参照下さい。

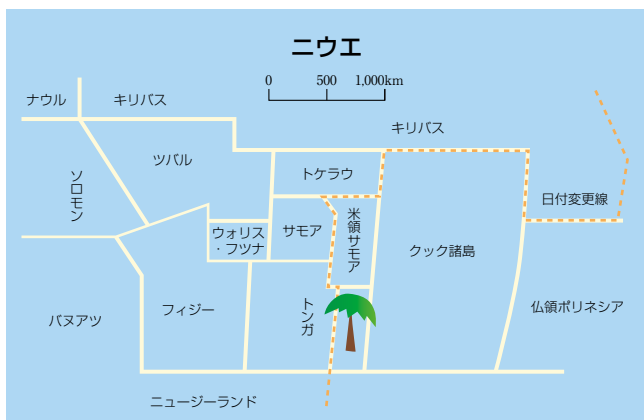
目 次

ニウエの概要	2
首都アロフィ	6
アロフィの一般事情	6
アクティビティ	8
ホテルとリゾート	14
ニウエ料理とレストラン	18
ニウエを訪れたい10の理由	20

ニウエ



正式国名	ニウエ (Niue)
面積	259平方キロメートル (鹿児島県徳之島とほぼ同じ)
人口	1,888人 (2020年、アジア開発銀行)
首都	アロフィ
民族	ニウエ人 (ポリネシア系民族) 90%
主要言語	ニウエ語、英語
宗教	キリスト教90%
政体	立憲君主制 (元首は英国のチャールズ三世国王)
1人当たりGDP	25,117ニュージーランドドル (2019年、アジア開発銀行)
通貨	ニュージーランド・ドル (NZ\$)
電話の国番号	683 + 相手先の番号



ニウエの概要



ニウエはニュージーランドとの自由連合国で人口約1,800人、南緯19度に位置して、東にクック諸島、西をトンガ王国、そして北を米領サモアに挟まれている。一番近い隣国トンガの首都ヌクアロファまで約600km、クック諸島の首都ラロトンガまでは約900km、ニュージーランドまでは約2,200km離れている。熱帯の海では珍しく、裾礁がほとんど無い孤島が南太平洋にポツンと浮かんでいることから「ポリネシアの岩」と呼ばれる。

ニウエ島は、面積259km²で一周67kmの道路に囲まれており、サンゴ礁が隆起してできた海岸線は複雑に入り組んでいる。砂浜は少ないがダイビング・スポットは多く、ニュージーランド政府の支援を受けて観光産業の育成に力を入れている。

歴史

ニウエに人が住み出したのがいつであるか正確には分からない。紀元後400年頃と信じられている。最初の遠征隊は、フォアとフアナキに率いられて島の北端ウルラウタないしモツに700年頃に上陸・定住した。その後、1250年頃までは新たな定住者についての記録は残っていない。1525年にトンガによる侵攻があり、アナトガで先住民と戦っている。その生き残りが島の南、タフィチ、ムイフォヌアないしヒクラウタに住みついた。さらにクック諸島からの移住者も混じって、今日のニウエ文化が形成されていった。

ニウエがヨーロッパに知られるようになったのは1774年のキャプテン・クック (Captain James Cook) の来航による。しかし、クック一行は、ニウエ人の激しい攻撃を受けて上陸を断念しており、同島の呼称を当初考えていた「プリンス・フレデリック島」から「野蛮人の島」に変更したという。その後1830年に宣教師ジョン・ウィリアムズ (John Williams) も上陸を試みたが、ニウエ人の抵抗に遭い目的を果たせなかった。

ニウエにキリスト教がもたらされたのは1846年になってからである。それもサモアでキリスト教に改宗していたニウエ人ペニアミナ (Peniamina) が、ロンドン宣教師協会と協力して布教を開始してからである。1849年、サモア人宣教師パウロ

(Paulo) によって布教活動は引き継がれ本格化していった。1900年、ニウエはイギリスの植民地となったが、このころにはキリスト教の宣教師達は完全にニウエをキリスト教化した。1901年ニウエ人には一切の相談が無いまま、ニウエはニュージーランドへ移譲された。

ニュージーランドはニウエをクック諸島に併合しようとしたが、ニウエ人の激しい抵抗にあい、これを断念している。

1974年10月、長年の交渉を経て自治権を獲得し、ニュージーランドとの自由連合関係に移行した。

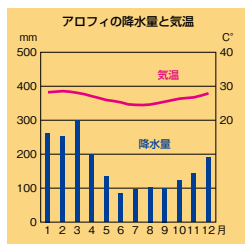
自然環境

太古のサンゴ礁が隆起してできたニウエ島は世界最大の珊瑚礁の島で、全体が2層になっており、下の層は平均20mほどの高さで、その上の層は一番高いところで65mほどある。島には多くの洞窟や小さな渓谷があるが、山や湖、川と呼べるものはない。雨が降ると、そのまま島の内部に吸い込まれ、石灰岩がフィルターとなって海にしみでる。そのため海は透明度が高く70m先まで見通すことができる。



年間を通して過ごしやすい気候だが、12月から4月まではサイクロンが発生する季節となる。2004年12月には近年で最も大型のサイクロン「ヘタ」が来襲し、島内各地に大きな爪痕を残した。年平均気温は25℃。4月から11月は南東の貿易風が吹き気温は24℃。雨量は12～3月に多く月平均270mmほどで、平均気温は29℃と蒸し暑い。乾季の6～9月は雨量100mm、

平均気温23℃くらいである。年間の降雨量は2,180mmで約170日が雨が



ニウエ島の東側にあるフバル森林は壮観な熱帯性森林と野生の花、そしてアジサシやインコなどの鳥類が見られるが、特に蝶は島のいたる所に群れ飛んでいる。

政治・外交

ニウエでは3年毎に総選挙が行われ、20人の議員が選出される。議員がその中から首相を選出し、首相は19人の議員の中から閣僚3人を選ぶ。議員は議員以外から議長を選出する。議員の14人は地区単位の選出で、6名は島全体から選ばれる。投票権は18歳以上の住民に与えられる。

外交と軍事は、憲法上、ニュージーランドの元首たる英国のチャールズ三世国王が

司り、ニュージーランドがニウエの経済・財政上の支援に責任を持つ。



ニウエの国会議事堂

経済

ニュージーランドの財政援助がニウエ経済を支えている。近年はニュージーランドの協力を得てエコ・ツーリズム等観光産業の育成に努力している。商業ベースの漁業も有望視され、バニラやノニ・ジュースも品質の良いものを産出する。



人々と教育

ニウエが自治権を獲得した1974年には約4,000人だった人口は、1998年には2,100人に、2013年には1,500人にまで減少していたが、2020年の統計で

は約1800人ほどに増えている。現在、本国の人口の10倍以上のニウエ人が海外で生活していると推定される。その数は、ニュージーランドに約22,000人、オーストラリアに約3,000人である。なお、面積約67km²のフバル森林とほぼ同じ広さのクック諸島のラロトンガ島では人口が11,000人以上となっている。

ニウエ人には憲法上ニュージーランドの市民権も付与され、ニュージーランドパスポートを保持している。識字率は太平洋島嶼国の中で最も高いグループに属し98%である。識字率が高いのはしっかりした教育制度に負うところが大きい。4歳児は先ず早期児童教育（ECE）で1年間の教育機会が与えられ、5歳で6年制の小学校に入学する。7年制の高等学校がニュージーランドのカリキュラムを基にして行われ、大学教育を希望する者には南太平洋大学の関連機関があって、奨学金を受けながら高等教育を受けることができる。

ニウエの日曜日

日曜日は安息日であり、教会へ行くほかは原則として何もしない。教会から帰ってくると、家で昼寝をするかビデオを鑑賞するなどして過ごす。ラジオの放送もない。ボートを出すことも午前4時から午後9時までは禁止されているのでダイビングも釣りもできない。海岸での遊泳も2~3か所が認められているだけなので、旅行者は注意が必要である。

ニウエへのアクセス

ニウエ政府は観光促進に力を入れているといえども、まだまだ訪問する旅行者は少ない。航空便数も限られているので運航日は旅行計画前に確認する必要がある。

通常の空路でニウエを訪問する場合、ニュージーランドのオークランド空港からの便が唯一の窓口である。オークランド空港を土曜日午前に出発し、約3時間40分のフライトの後、日付変更線を越える影響で、金曜日にハナン国際空港に到着する。逆に同日の昼過ぎにニウエを出発した便が、土曜日の夕刻にオークランドに到着する。

2022年12月現在、ニウエへの便は週1便のみなので、ニュージーランド航空にて運行情報を確認する必要がある。



首都アロフィ



空港からアロフィへ向かうと、1～2kmで島を一周する道路（約67km）にぶつかる。この道路はアロフィの町中を海に沿って数キロにわたって延びており、その両側がニウエの市街となる。空港から周回道路にぶつかって右手に進むと1.5kmほどでマーケットと小さな複合商業施設がある。ニウエ随一のマタバイ・リゾートは空港からアロフィと反対方向3kmほどにある。

アロフィの一般事情

●ニウエ到着と入国手続

ハナン国際空港はアロフィのほぼ南、約5kmに位置する。タラップを降りて小さなターミナルに入り、入国審査と税関検査を受ける。出国用航空券と滞在費を所持していれば30日以内の観光にはビザが不要、滞在日数は入国カードに記載した滞在日数になるので余裕をみて記入すること。

税関検査に関しては、生鮮食品には厳し

い規定があるので持ち込まないようにすること。たばこは200本または227グラム、酒類は3本3リットルまでが免税となる。

●空港から市内へ

ニウエには公共交通機関がないので、空港からはホテルの送迎車を利用する。ほとんどのホテルは飛行機の発着に合わせてシャトルを出しているが、ホテルに迎えを頼んでいない場合には、ほかの出迎えの人に頼んで目的地まで乗せてもらうこともできる。ニウエにはタクシーはないので注意

が必要だ。

●通貨・両替・税

ニウエでは空港を含め外貨からの両替はできない。通貨はニュージーランド・ドルであり、日本あるいはニュージーランド滞在中に両替しておきたい。カードについては、主要なホテルやレンタカー、ダイブ・ショップでの利用が可能である。島内にATMの機械はないため現金を下ろすことはできない。

ニウエは、2009年2月より物品・サービスに対して12.5%の税が課せられる消費税が導入された。これに伴い、2009年4月より所得税は軽減され、タバコ、アルコール類、ソフトドリンクを除く物品への輸入税は撤廃された。

●郵便と電話

郵便局はアロフィの中心のコマーシャル・センター内にある。ニウエは美しい切手を発行しており、これは外貨獲得にも役に立っている。ポストカードなどの絵葉書もこの郵便局から出すことができる。

電話局も同じ場所にあり、24時間サービスを行っている。携帯電話は、SIMフリーのものならば、電話局でSIMカードを購入すれば利用できる。現地のSIMカードを購入することで4Gのインターネットを利用できるが、日本を含む海外のSIMカードのローミングは使えないので注意が必要だ。

●時差

ニウエは日本より20時間遅い。日本が正午の時、ニウエは前日の午後4時である。

●飲料水

政府の広報では、水道水（井戸からの水と雨水）は化学的処理がなされていないので煮沸して飲むことを勧めている。観光客の場合は、沸騰させたものかミネラルウォーターを買って飲むのが安心である。

●治安

狭い島であり、人々は親切で、盗難も少ない。ただ、珍しいものには関心が集まるので、注意したい。

●チップ

チップの習慣はない。

●電圧

240V、50Hz。プラグやソケットはニュージーランドやオーストラリアと同じで、三又なので日本のものはアダプターが必要となる。

●緊急時連絡先

警察あるいは消防はダイヤル999。新病院では救急を24時間受け付けている。

(Tel.4100)

●持参したいもの

ニウエにはスーパーマーケット1軒の他商店がいくつかある。日用品等は豊富にあるが、胃腸薬や消毒薬、日焼け止め、虫除けのほか、カメラのフィルムや電池、洞窟などに入る時のゴム靴、水中ライトなど、特別に必要なと思われるものはなるべく持参したい。

●空港税と出国手続

ニウエの出国手続の賢い方法は、チェックインを早く行うことである。空港で

チェックインをして搭乗券をもらったら、ふたたび町に戻って食事をしたり、最後のひと泳ぎをすることもできる。(実のんびりしていて、なにか嬉しくなる。)

●島内交通

1周67kmの小さな島であり、公共交通機関やタクシーはないので、自動車や自転車をレンタルすることを薦める。車を運転するにはニウエ警察署に NZ\$22.5を支払い許可証の発給を受ける必要がある。レンタバイクやレンタカー業者は数社あり、ホテルで相談すれば安心できる業者を紹介してくれる。ホテルでレンタカーを貸しているところも多い。町中の制限速度は40km/hで、それ以外は60km/h。スピード違反で警察に捕まった場合、NZ\$300の罰金があるのでスピードは厳守。

ペレニス旅行代理店

Peleni's Travel Agency
(Tel : 4317, Email : pelenistravel@niue.nu)

ニウエにおけるニュージーランド航空の代理店でもあり、ゲストハウスを経営している。レンタカーバイクやレンタカーの手配などニウエでの旅行に関する業務に関して対応している。クレジットカードの利用も可。

レンタカー会社

ニウエ4x4レンタルズ

(Niue 4 x 4 Car Rentals Tel : 6392
Email: niue4x4rentals@gmail.com)

主に四輪駆動車をメインにレンタルしている。

アロフィ・レンタルズ

(Alofi Rentals, Tel : 4017,
Email: alofirentals@niue.nu)
アロフィの中心にあり便利。

ヘアヘア・レンタルズ

(Heahea Rentals, Tel:4317,
Email: carrentals@niue.nu)
安価なレンタカーが多くニウエ人に人気がある。

ニウエ・レンタルズ

(Niue Rentals, Tel:4216,
Email: res.niuerentals@niue.nu)
老舗のレンタカー 多くの車種を揃える。

アクティビティ

政府観光局

Niue Tourism Office
(Tel : 4224,
URL : <http://www.niueisland.com>)

アロフィの中心部にあるシンボリックな建物。2008年にニウエで開催された太平洋諸島フォーラムの年次総会に向けて建設された。内部には観光関係の情報はもちろん、ニウエの歴史などを紹介する簡単な博物館的な機能も有している。またニウエ産のパニラやココナッツオイル、ニウエのロゴが入ったグッズなども販売するコーナーも設けられている。

観光局の対応は親切で、その日の開催されるイベントや見どころなどが入口の看板に掲載されるなど、詳しい情報を説明してくれる。また、各種ツアーの予約も受け付

けている。ホームページも充実しており、ニウエ訪問の際は是非とも参考にしたい。



●ダイビングとシュノーケリング

ニウエには川や湖がなく、降った雨は一度珊瑚礁でできた岩盤でろ過された後海に出て行くことから海の透明度が高く、とくに4月から11月の乾季には視界が40m以下になることはなく、時には50~70mに及ぶことさえある。ニウエのダイビングは豪快で、サメやイルカ、そして7月から10月には鯨に出会うこともある。ダイビング・スポットはそのほとんどが西海岸にあり、入り組んだ地形が作り出す様々な洞窟の探検は飽きることがない。また、ニウエは海へびの多いことで知られており、島の南西アバテレ村の近くには「蛇の峡谷」(Snake Gully)と呼ばれるダイビングポイントがある。



ニウエ・ダイブ

Niue Dive

(Tel : 4311, URL : <http://www.dive.nu>)

ニウエを代表するダイビング・サービスで、1ダイブの料金はNZ\$160、装備一式のレンタル料金を含んでいる。シュノーケリング用具(シュノーケル、マスク、フィン)のレンタルは1日 NZ\$20 (2022年12月)。シュノーケリングのコースや、クジラやイルカと泳ぐホエールスイムなども催行されている。必要な情報はホームページで詳しく紹介されている。

●フィッシング

マカジキ、バショウカジキ、ジャイアント・トレバリ(Giant Trevalli)、イソマグロ、シラ、ハガツオ、カツオ、アジ類などが、岸から数メートル離れたところからでも生き餌、ルアーなどで釣ることができるほどだ。船をチャーターすることもできる(詳

細はニウエ政府観光局で入手できる)。

夕方になると、伝統的なカヌーや小舟で釣りに出た漁師たちの獲物で埠頭はまるで魚市場のようになる。



●サイクリング

車の少ないニウエはサイクリングにはうってつけの場所である。舗装した道と凸凹の未舗装の道が入り混じっているが、洞窟ツアーを楽しみながら島を回ってスロークライフを満喫するのも楽しい。電動自転車をレンタルしているところもあるので観光局で確認したい。

●ドルフィン&ウェール・ウォッチング

ここニウエでしかできないこととして、水中に潜っている鯨をシュノーケリングで上から確認することができるということである。鯨は通常一度水中に出て呼吸をすると15分間は潜り続けるため、水中での様子はダイビングなど自らも潜らないとみることができない。しかし、ニウエの場合は、70メートルにもなる透明度の高い海が広



がっているため、シュノーケリングでさえも水中の鯨を見ることができる。ホエール・ウォッチングの時期に訪問する場合は是非ともチャレンジしてみたい。前述のNiue Blueで予約が可能である。

●ゴルフ

空港に近くには整備された9ホールのゴルフ場がある。1ラウンド20ドルでプレイができ、必要ならばクラブハウスにてゴルフ用具を借りることもできる(25ドル)。



●島内観光の見どころ

小さい島であるが、見どころは結構多い。洞窟や雨林などは道が入り組んでいたりして迷うことも多いので、ツアーに参加するほうが安全である。ツアーには、島内めぐりやカヌー旅行など多彩な企画がある。

近年は個人でレンタカーやバイクを運転して島内を回る観光客のためにニウエ政府観光局が中心となって、島内の見どころには丁寧な解説が付いた立看板が準備されている。また立看板の近くにはシャワーやトイレが設置されているところもあり、海水浴を楽しむ観光客には大変親切である。

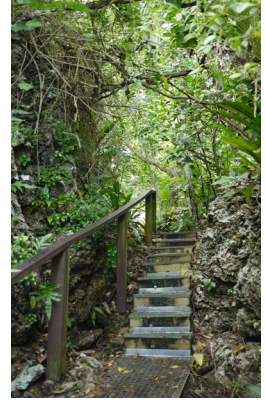
洞窟ツアーでは壮観な地下の洞窟と驚くべき鍾乳石や石灰岩層を見ることができる。洞窟はその昔にカヌーなどを保管した場所、あるいは先祖を埋葬した場所ともいわれ、謎の部分も多く残っている。アバイキ洞窟の中は湧き水のプールになっていて、底の方で海につながっていることからコーラル・フィッシュがいたりして泳ぐのも楽しい。

また、ニウエには危険な動物がいないので、安全に美しい自然を満喫できる。ニウエの土地面積の2割を占める手付かずの熱帯雨林を散策し、美しい鳥や林、花々を楽

しもう。

さらに、潮の引いたサンゴ礁の散策は、とても楽しいものだ。ヤシガニをとりに行くツアーや、ニウエの原生林を歩くツアー、ニウエの特産品であるバニラを見学するツアーなどもある。

島内のツアーの予約はアロフィのニウエ政府観光局で行っている。



ニウエ朝市

"Makete" Market

毎週火・水・金曜日の早朝から、アロフィ市内中心部にある市場で開催される朝市。現地の人々はもちろん、多くの観光客も訪れる。市場には島内各地から集められた果物やヤシガニなどの新鮮な食材や、珍しい伝統料理の他に、ハンディクラフトなどの土産物がリーズナブルな価格で販売されている。また、毎月最初の週の木曜日には「オーガニックマーケット」が開催されることもあるので、政府観光局やホテルに

て開催日を確認することをお勧めしたい。

火曜日：午前6時～午前8時

水曜日：午前7時半～正午

金曜日：午前6時～午前8時



アバйки洞窟

Avaiki Cave

アロフィの市街から7kmほど北に行くと、海に面して大きな口を空け、澄み切った水を湛え、石筍の垂れ下がった洞窟がある。自然の湧き水を湛える美しい岩のプー



ルといった様であるが、底の方で海につながっていることからコーラル・フィッシュが見られる。2月頃は、現地でコロアマと呼ばれる魚の繁殖地となるため数週間遊泳が禁止される。

国王の墓

Graves of Two Island Kings

政府庁舎の少し北に2人の国王の墓がある。1876年から87年までの国王、ツイトンガと1888年から96年までの国王、ファタアイキの墓である。2人の国王はともに選出された国王であり、ファタアイキ王の本職は学校の教師だった。隣には教会があり戦争記念碑も建っている。

星空観察

Star Gazing

ニウエはダークスカイ協会により世界初の星空保護国として認定された。周囲に大都市が存在しないため、光害がほぼ皆無で、世界でも有数の星空が美しい国だ。望遠鏡を用いた星空観察会が年に数回行われている。宿によっては双眼鏡や望遠鏡をレンタルしているところもある。



ヒオ・ビーチ

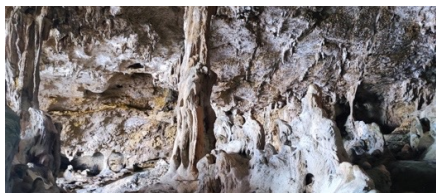
Hio Beach

アロフィの北10kmにあるこのビーチはヒオ・リーフとも呼ばれ、白砂の浜辺が広がる。引き潮の時には100mほど北まで砂州を歩くことができる。そこは絶好のシュノーケリング・スポットでカラフルな熱帯魚が群れをなして目の前を泳いでいく。(2022年12月現在、海に降りる階段は閉鎖されている。)

パラハ洞窟

Palaha Cave

アバイキ洞窟から200mほどのところにあり、上からは鍾乳石が下がり、下からは石筍が伸びている。干潮時には海に出ることもでき、珊瑚礁から洞窟を見渡すことができる。洞窟の入り口は滑りやすいので注意が必要。

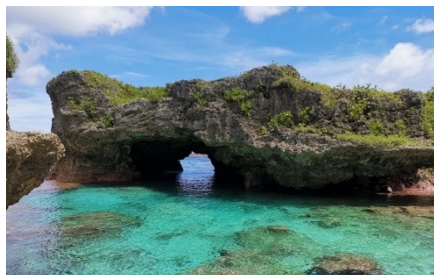


リム・プール

Limu Pool

ヒオ・ビーチから北に約1km、ニウエ最高のシュノーケリングのスポットで、色鮮やかなサンゴと熱帯魚が見られる。ここでは黒とグレイの縞の海へびに出会うこともある。この少し北にアナ・マハガ (Ana

Mahaga) と呼ばれるニウエで一番人気のあるダイビング・スポットがある。見ておきたい。



トゴ・キャズム

Togo Chasm

緑の森を抜け長い木製のハシゴを降りると、絵のように美しい小さなオアシスに行

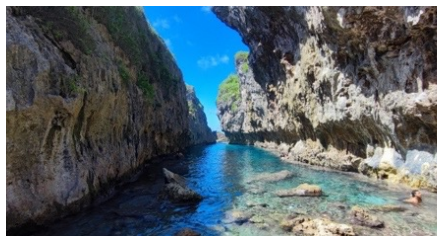


きつく。岩の谷間のココナツの木はとても印象的。アーチ状の岩を進むと、岩肌に打ちつける波音を聞きながら大海原を眺めることもできる。

マタパ・キャズム

Matapa Chasm

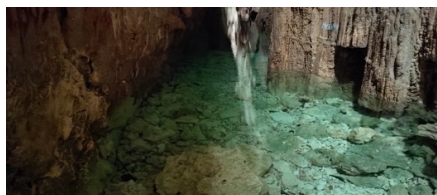
隆起したサンゴが狭い渓谷をつくっているような場所で、真水が底から流入して水温が冷たくなっている。昔は王族の秘密のプールになっていた。海水はエメラルド・グリーンで絶好のシュノーケリング・ポイントでもある。現地の子どもたちにも人気のスポットだ。



アナパラ・キャズム

Anapala Chasm

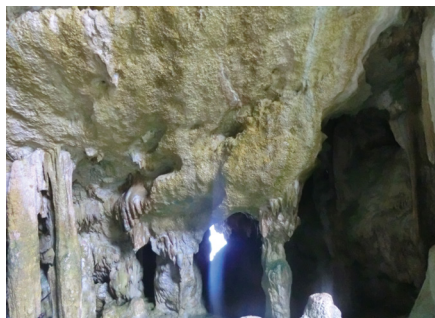
ハクブ村の隣にあり、深く急峻な崖を下ると、その底に冷たい水を湛えた泉がある。川や湖のないニウエにとって、昔から水源として重要な場所である。



タラバ・アーチ

Talava Arches

ニウエの人々にとってピクニックの場所として一番人気がある。洞窟が波に洗われて大きな天然の橋になっており、もう一つの小さな天然橋は後ろにある鍾乳洞の一部でもある。駐車場からは徒歩で20分ほどかかる。



ホテルとリゾート

ニウエのホテルは、その多くが首都アロフィを中心とする島の西側に集中している。リゾート・タイプからゲスト・ハウスまでいろいろなタイプがある。しかし、全体でも客室総数は約60、ベッド数は約100と極めて限られている。客室の多くには簡単な台所がついており、共用であるが洗濯機もあり長期滞在者にも便利であ

る。主要なホテルは次の通り。

シニック・マタバイ・リゾート

Scenic Matavai Resort

(Tel : 4360, Fax : 4361,

E-mail : matavai@niue.nu,

URL : <https://www.scenichotelgroup.co.nz/niue/>)



空港から南に車で約5分の距離にあり、真っ青な太平洋に面し、広大な180°の眺めは息をのむほどの迫力。海岸に沿った崖の上に建つ高級リゾート・ホテル。客室は全てスタジオ・タイプで22室、内2室はエアコン付き。敷地内に真水のプールが2面、バー、レストラン、ショップがある。ホテル内は全面禁煙。無料空港送迎、朝食付き。



コロリス・モーター

Kololi's Motel

(Tel : 4171, Fax : 4010,

E-mail : rupina@niue.nu.)

アロフィの中心部で、空港より車で約5分と便利な立地にある。全室にキッチンがあり、電子レンジ、クッカー、食器、食器洗い機等が整っている。共用の洗濯機、DVD/TVがあり、長期滞在に向いている。2寝室タイプのスイートから、共同トイレのトゥイン・ルームまで全6室。インターネットの環境が整っている。宿泊客は無料で15速の自転車を利用できる。クレジット・カードは利用できない。



ペレニス・ゲスト・ハウス

Pelenis Guest House

(Tel : 4317,

E-mail : pelenisbookings@niue.nu)

アロフィの中心部に位置し、商店、公共施設に近く便利。もともと個人用の住居であった建物を改造したゲスト・ハウス(トゥイン2、ダブル1)であり、今も家族的な雰囲気にあふれ、パーソナル・タッチのサービスで知られる。



ナムックル・コテージ&スパ

Namukulu Cottages & Spa

(Tel : 4533,

E-mail : namukulu_cottages@niue.nu,

URL : www.namukulu-cottages.nu)

アロフィから北に車で10分の、南洋風のゆったりとした雰囲気の下に建てられたスタジオ・タイプのファレ（3つ）からは美しい海が見える。庭に真水のプールがある。徒歩で約5分の海岸は、水泳とシュノーケリングで有名なポイント・リム（Limu）も近くにある。無料空港送迎あり。



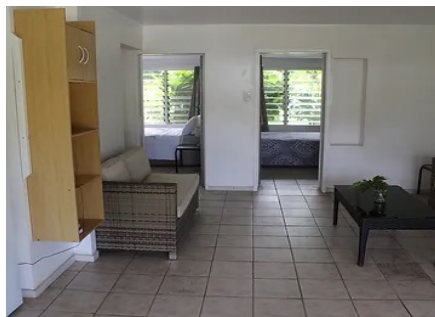
アレキ ゲストハウス

Aleki Guest House

(Tel : 4826, E-mail : ozwinikiua@gmail.com

URL : https://www.alekiguesthouse.com/)

ニウエ南部のアパテレ村に建つゲストハウス。アパテレ村のビーチまでは歩いていける。アロフィからは車で15分ほど。レンタカーも宿代に含まれている。

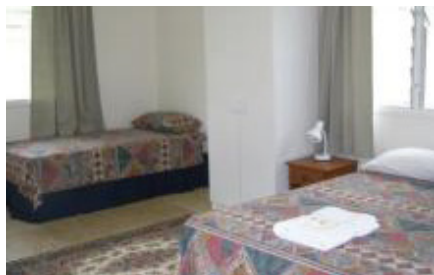


ラヌタヒ・ホリデー・アパート

Lanutahi Holiday Apartments

(Tel : 4317, E-mail : lanutahi@niue.nu)

広々とした1寝室タイプでクッカー、冷蔵庫等家具完備のアパート。空港の南約6



Kmのタマカウトガ村にあり、ニウエ・ダイブのすぐ近くにあつて、各種アクティビティには便の良いロケーションにある。

タロアハイツ

Taloa Heights

(E-mail : taloaheights@niue.nu,

URL : <https://taloaheights.nu/>)

アロフィの政府庁舎の近くに位置している7種類のバンガロー。アロフィの中心に近いので買い物にも便利。



アナイキ・モーター

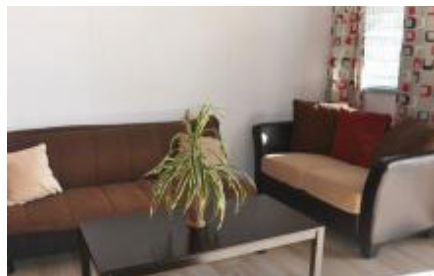
Anaiki Motel

(Tel : 4320, E-mail : info@anaikimotel.com

URL : www.anaikimotel.com/)

アロフィの北、空港から10分ほどのところに位置する海に面した絶景の広がるモーター。アバイキ洞窟やリム・リーフも

近く、海水浴にはうってつけのシチュエーション。1ベッドルームの部屋が4室とこじんまりとしている。



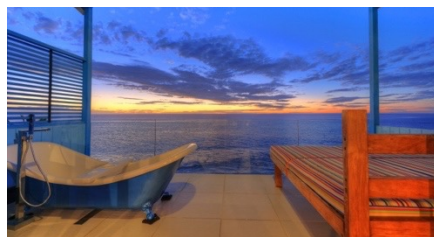
ラウズ・ゲットアウェイ

Lau's Getaway

(Tel : 4844,

URL : <https://www.lausgetaway.com>)

アロフィから南に位置するアバセレ村にあるコテージ。2階建てのオーシャンビューのユニットを独り占めでき、とても



ロマンチック。新婚旅行での滞在も多い。清潔な室内に、大きなリビングルームとベッドルーム。そしてキングベッド。海の目の前で入ることのできるバスタブは実に爽快。クジラのシーズンには目の前でクジラが跳ねることも。

ニウエ料理とレストラン

ニウエではバラエティーに富んだポリネシア風やヨーロッパ風の食事が楽しめる。ニウエの人は伝統的に料理にうるさく、その質に誇りを持っている。14の村ではそれぞれ毎年「村の紹介日」(Village Showdays)なる催しを開いて、ローカル料理を始めとして伝統文化、スポーツ、手工芸品を紹介する。伝統的料理「ウム」(Umu)が用意され、観光客はその味を楽しめる。

大都市とは違い、ニウエでは全てのレストランが常時オープンしているわけではない。レストランには、かならず予約して出かけよう。



カイイカ・レストラン

KAI IKA restaurant

(Tel: 4628, Email: sushi@kaiika.com)

アロフィ南部にある島内で最もにぎわっている注目のレストラン。日本人シェフによる新鮮な海の幸を使った寿司や刺身の盛り合わせ、てんぷらなどの和食は、観光客からはもちろん、ニウエの人々からも絶賛されている。手作りのピザも人気が高い。ニウエを訪問した際は必ず訪れたい。

木曜日の夜には、レストランの裏庭に置かれている「アーク号」という船でローカルの人たちとカラオケやダンスが楽しめる。

昼：月～金曜日・午前10時～午後2時

夜：月～金曜日・午後6時～午後9時

日曜日・午後5時～午後8時

土曜日定休



マタバイ・リゾート

Matavai Resort (Tel : 4360)

マタバイ・リゾート内にあるレストラン。ホエールウォッチングのシーズンならば、海辺に面したレストランから鯨を見ることができる。曜日によってはライブ演奏があることもあるのでチェックが必要。

朝 7:00-9:00

昼 12:00-2:00



タバナズカフェ

Tavana's cafe (Tel : 4334)

アロフィの郵便局や銀行が位置するコマースセンターの中心にあるカフェテリア。ローカルに絶大な人気を誇る老舗でフィッシュアンドチップスや揚げカニカマは人気がある。

月曜～金曜 午前10時～午後2時

土曜 夜 午後6時～午後8時



ザ・クレージー・ウガ

The crazy Uga (Tel : 4653)

月曜～土曜日までオープン。アロフィの中心に位置し美しい海を眺めながらの朝食は最高。軽食もある。本物のエスプレッソを飲むことができる。水曜日と土曜日の夜はバーガーナイトを開催している。

月曜～金曜：午前8時～午後2時

土曜日：午前9時～午後2時

バーガーナイト

水曜日、土曜日：午後6時～午後9時



パイオラマ・カフェアンドバー

Vaiolama Cafe and Bar (Tel : 4336)

アロフィの南部にある軽食屋さん 海を見ながらサンドイッチなどを楽しむことができる。水曜日から週末は夜の営業もしていてビールやカクテルの種類も豊富だ。

月曜～金曜：午前9時～午後1時半

水曜～土曜：午後6時半～午後8時半



● ニウエを訪れたい10の理由 ●

ニウエ政府観光局作成

1. 意外に近い：オークランドからわずか3時間余り
2. 通貨はニュージーランド・ドル
3. 「観光客として訪問しても、帰りにはもう友達」：人口はわずか1,800人の島なので、帰るときには島民の半分は友達になっています！！
4. 当たり前と思っているものがニウエにはないので：犯罪も、信号も、行列も、渋滞も全くありません！！
5. 全くユニークな地形：隆起サンゴ礁でできているので、他の島々にはない洞窟や溪谷があります。
6. 世界中どこにもない環境の中をウォーキング三昧：手つかずの森林やドラマチックな洞窟から、起伏の激しい海岸線、見たこともない絶景に、洞窟にできた天然のプール。5分から5時間まで様々なプランで、トレッキングを安心して楽しめます。
7. 一生に一度しかできない経験。。。ニウエは世界でも数少ない鯨と泳げる場所です。シュノーケリングで水中を泳ぐ鯨を観察することも可能です！！
8. 釣り天国：島の周りには獲物がたくさん泳いでいます。海岸から100メートルでゲーム・フィッシングを楽しめるんです。
9. 行ったことがあると自慢できます。：こんなに面白い場所なのにまだまだ知られていません。行くのだったら、他の人たちが知ってしまう前の今です。
10. やることがたくさんありすぎて、ニウエに来たらじっとしてなんていられません！！

関係先リスト

貿易・投資コンタクト先

- Niue Chamber of Commerce
PO Box 213
URL : <https://www.niuechamber.com/>
- InvesNiue (Investment)
E-mail: frank.sioneholo@mail.gov.nu

観光コンタクト先

- Niue Tourism Office, Niue Island
Visitor Information Centre, Alofi, Niue Island
PO Box 42, Alofi, Niue Island
Tel : (683) 4224
Fax : (683) 4225
E-mail : info@niueisland.com
URL : www.niueisland.com

編集及び写真提供をいただいた方々（順不同・敬称略）

Special Thanks to

- ニウエ政府観光局
- ニウエ政府顧問 和田泰一

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

ニウエ

発行日：2023年3月

発行：国際機関 太平洋諸島センター（PIC）

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-22-14

明治大学 紫紺館1階

電話：03-5259-8419

URL : <https://pic.or.jp/>

NIUE



国際機関

太平洋諸島センター

International Organisation Pacific Islands Centre (PIC)

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-22-14 明治大学 紫紺館1階

Tel: 03-5259-8419 / Fax: 03-5259-8429

<https://www.pic.or.jp> E-mail: info@pic.or.jp

表紙写真: ここだけの空、ここだけの海、Avaiki Cave
写真提供: South Pacific Tourism Organisation (eSPTO)